

## Q1 なぜ、地域との連携・協働が必要なの？

A 地域の方々は、**学校のパートナー**だからです。

地域と連携・協働した教育活動は、子どもたちの生きる力や郷土愛を育むことにつながります。子どもたちを取り巻く問題は多様化し、学校の力だけでは解決が難しい課題もあります。子どもたちの健やかな成長のために、学校と地域がスクラムを組み、よりよい学校・地域を作っていきましょう。**連携・協働する効果は…**

### 教職員にとって…

「より専門的な授業が展開できるようになった！」  
「本物の体験を取り入れた充実した活動になった！」  
「業務にゆとりができた。」



### 子どもたちにとって…

「授業がわかりやすくて楽しい♪」  
「登下校も怖くないよ。」  
「生まれ育ったこのまちが大好きだよ！」



### 地域の方々にとって…

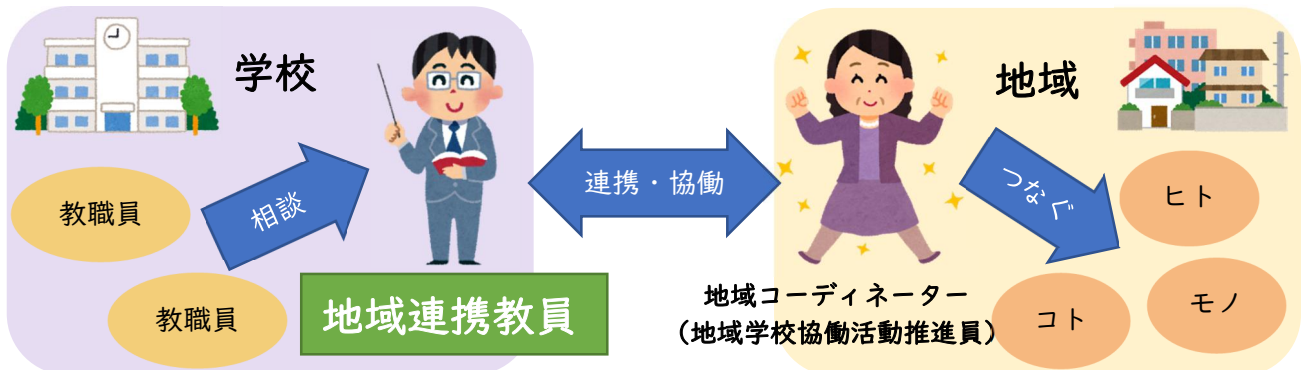
「子どもたちのために何かできることはないかな？」  
「学校で活動したら新しい仲間が増えた！」  
「もっと学びたい！」



## Q2 誰に相談すればいいの？

A **地域連携教員**です。

平成26年から、各学校に1名ずつ配置されました。地域の教育力を生かした教育活動を充実させるために、学校と地域をつなぐ窓口になっています。



## Q3 謝礼や交通費等の取り扱いは？

A 基本的には**無償**です。

金銭的な見返りより、校内での温かな受け入れ体制や子どもたちの笑顔やあいさつの方が、地域の方々の活動の励みになります。感謝の気持ちは、子どもたちからのお礼の手紙や次につながる言葉かけ等で表しましょう。

※一部、実費・交通費・謝礼・弁当代等がかかる場合があります。



## Q4 実際にやってみたいときの具体的な手順は？



### STEP 1 教職員の気付き

日頃の学校生活の中で、このようなことはありませんか？

「やりたい」「伝えたい」「広げたい」「充実させたい」「人手さえあれば」「困った」「いいアイデアはないか」…等。それこそが、地域との連携・協働にチャレンジするチャンスです！



### STEP 2 地域連携教員への相談、依頼

- ① 同僚や所属学年・校務分掌チームのメンバー、社会教育主事有資格教職員（※）に自分の思いを伝えてみましょう。仲間との話し合いで出てきたアイデアの中から活動内容を精選していきます。  
※栃木県では、学校・家庭・地域の連携を進め、地域の教育力の向上を図るため、社会教育主事となる資格を有する教職員の全校配置を目指し、計画的に社会教育主事講習に派遣しています。上都賀地区では全教職員のうち、11%が有資格者です（R5実績）。
- ② 活動内容がある程度決まったら、【資料2】**地域との連携・協働 相談シート**（👉P15）を作成し、このシートを携えて**地域連携教員**に相談に行きましょう。
- ③ 詳細について具体的な打合せをしたあと、地域連携教員を通して地域コーディネーター（地域学校協働活動推進員）等に活動に適した連携・協働先（講師、ボランティア等）を見つけていただきます。

**重要!**

◎地域連携教員との打合せでは、連携・協働先（講師、ボランティア等）に対し「〇〇をして欲しい」という要望だけでなく、子どもたちと一緒に育むパートナーとして、連携・協働先（講師、ボランティア等）にもメリットがあるように“一緒に何ができそうか”を考えることが大切です。



### STEP 3 いざ、地域との連携・協働！（当日）

#### Plan：顔合せ（事前）

担当の教職員と地域ボランティアでそれぞれの役割分担を確認します。特に、児童生徒に関する配慮事項や安全面での注意事項について共通理解しておきます。

例：〇〇川の探索学習（小4）  
総合的な学習の時間

#### Action：改善（後日）

活動のねらいに照らし合わせ、内容や大人の関わり方が適切だったかを、子どもの変容やボランティアの声をもとに点検し、よりよい活動に改善します。（👉P20）



#### Do：活動（事中）

活動のねらいに合わせて、〇〇川水域の環境の説明や水生生物の捕獲の仕方を教えていただきます。子どもたちの主体性を養うため、手を出しすぎないようお願いしておきます。

#### Check：ふりかえり（事後）

活動が終了したら、立ち話でも良いので地域ボランティアとともにふりかえりを行います。その後、ボランティアには控え室に移動していただき、**ふりかえりシート（※）**を記入してもらいます。ボランティア室として、空き教室を有効活用している学校がたくさんあります。

ふりかえりシート（※）の例

ボランティアノート			
日時	お名前	活動	感想等
9/22	上野智花子	〇〇川の探索学習	案外に容易に川に落ちたので、安全面に留意して参加しました。
〃	日光太郎	〃	川へ降りた瞬間、もう一歩あるとよいと思う。
〃	藤田良太	〃	別の季節に別の水生生物に興味を持ってほしい。